

神出シニアコミュニティ

平成26年度事業報告

< 法人理念 >

目と手に心をそえて

< 施設理念 >

私たちはご利用者やご家族に安心していただけるようサービスの向上に努めるとともに、ご利用者との心と心が触れ合う施設を目指します。

< 基本方針 >

1. 私たちは、専門職として向上心を持ち、知識の習得に努めます。
2. 私たちは、専門職として向上心を持ち、技術の習得に努めます。
3. 私たちは、専門職として真心込めた、温もりあるサービスを提供します。

< 従業員数 > (平成26年4月1日現在)

正職員	62名 (男20名 女42名)	
P職員	29名 (男4名 女25名)	合計91名

(平成27年3月31日現在)

正職員	57名 (男21名 女36名)	
P職員	34名 (男4名 女30名)	合計91名

< 目次 >

- ・法人・施設本部
- ・特別養護老人ホーム 神出シニアコミュニティ
 - 生活相談員
 - ショートステイ生活相談員
 - 介護支援専門員
 - 介護職員 (本館1F、本館2F、北館1F、北館2F)
 - 看護師
 - 管理栄養士
- ・神出シニアコミュニティ デイサービスセンター
- ・神出シニアケアプランセンター

● 法人・施設本部

今期のテーマ 施設運営の基本的スタンスの再考

- 今期計画
1. 人材の育成
 2. 中・長期事業計画の作成
 3. 家族会（OB 家族含む）の結成支援
 4. その他

1. 人材の育成

- ① 新人職員の育成カリキュラムの見直し
- ② 中堅職員の育成
- ③ 育成指導者の養成
- ④ 社内勉強会の開催（希望者のみ）
- ⑤ キャリアアップ制度の明確化
- ⑥ 人事考課制度の充実
- ⑦ 処遇改善手当の交付方法の見直し

< 結果 >

- ①新人個々の知識・技術の到達度を本人が認識・指導者が把握すべくチェック表を改定し、月締め、最終6ヵ月後の到達目標・達成状況を確認すべく体制を整えた。最終夜勤勤務についてはマンツーマンでの指導に当たるため、6人夜勤（通常5人）体制にて対応、夜勤勤務の不可を確認していった。
- ②中堅職員については、日々のケアについての反省・検討の場を儲け（不適切ケア62項目の抽出）ケアの統一を図った。
- ③育成指導者の養成については思ったような成果は出なかった。
- ④社内勉強会は副施設長が中心となり、希望者を対象に半年間毎月1回の勉強会を開催し、基本的な介護について勉強した。参加者は常時12～15名程度であった。
- ⑤キャリアアップ制度の明確化については今後の積み残しとなる。
- ⑥人事考課制度の充実については、職員の意識は付いてきており、昇給・賞与支給の際、個々に確認できるようになってきた。
- ⑦処遇改善手当の交付方法の見直しは27年度実施となる。

< 反省・検討 >

- ①厚生労働省助成金事業としてパート職員を対象に20時間（6ヶ月 11名）の介護力向上施設内研修（外部講師 ヒューマンアカデミー）を行い、パート職員のレベルアップを図る。
- ②介護力向上において、一つの課題は指導者の養成である。これについては、平成2

7年4月より介護主任、特養副主任、デイ副主任を対象に一年を通じた、介護指導者養成講座（外部講師）を開講し、指導方法・同じ目線を共有し、介護技術を再確認し、統一した介護を部下に指導出来る指導者の育成を図る。

③職員の就業意欲向上の為、キャリアアップ制度・人事考課制度の充実を早急に図る。

2. 中・長期事業計画の作成

- ① 財 務
- ② 介 護
- ③ 人 事
- ④ 運 営
- ⑤ 地域貢献

< 反省・検討 >地域貢献については、2地区自治会総会へ出席し、「まちの保健室」事業への参加を呼びかけるなど、徐々に活動幅を広げてきているが、計画書として、中・長期事業計画の作成はできなかった。平成27年度中に作成。

3. 家族会（OB 家族含む）の結成支援

- ① 利用者家族に対し家族会結成を依頼（平成26年6月）
- ② 結成に向け負担とならないよう配慮

< 結果 >

家族会結成に向けた動きができなかった。

< 反省・検討 >

一部家族には家族会結成に向けた案を紹介したところ協力する旨の返答を頂く。27年度結成に向け準備をしていく。

4. その他

- ① 各種マニュアルの整備、作成
- ② 神出便りの発刊
- ③ 決算の公表（法人、事業所）
- ④ 設備・喫煙所の設置他

< 結果 >

①各種マニュアルについては、各担当委員が整備に当たってきた。更なる充実を目指す。

②神出便りの発刊はできなかった。更なる身近な施設と感じて頂く為、27年度発刊を目指す。

③ホームページ、玄関ロビーにて決算書・法人概況及び事業報告を掲載・提示。

④LEDの導入、喫煙所の設置等行う。LEDの導入は前年度の空調設備導入と相まって

使用電力は前年比175, 179kwh の節電、金額にして2, 310千円の削減となり、兵庫県内26年度節電優良企業2社の中の1社に選出される。

< 反省・検討 >

マニュアルについては、マニュアルを利用するという根本的な習慣が無いことで風化してしまいがちな状況にある。利用しないことでマニュアルの内容が実勢にそぐわないものとなる。施設内研修・勉強会等での活用を習慣付ける。

● 特別養護老人ホーム 神出シニアコミュニティ

特養入所定員	100名
SS入所定員	20名
介護正職員数	40名 (男15名 女25名 介護福祉士有資格者24名)
介護P職員数	20名 (男1名 女19名 介護福祉士有資格者6名)
看護師職員数	7名 (内P1名)

(平成27年3月31日現在)

特養入所定員	100名
SS入所定員	20名
介護正職員数	35名 (男15名 女20名 介護福祉士有資格者23名)
介護P職員数	25名 (男1名 女14名 介護福祉士有資格者5名)
看護師職員数	6名 (内P0名)

< 生活相談員 >

今期のテーマ 家族との更なる信頼関係の構築

今期の計画 1. 実質稼働率97%の達成
2. 人材の育成・地域貢献を更にすすめていく

1. 実質稼働率97%の達成

(1) 人員管理

- ① 退所後の速やかな新入所の日程調整
- ② 入院者の管理（病院への面会等）を行い、症状を把握、病院MSWとの連携強化に努め、退院許可後の日程調整を行う。また、退院が見込まれない時は、ご家族と相談し、今後の対応を早急に決定する。
- ③ 入院ベッドのSS利用を更に進める。
- ④ 病院・老健施設の新規開拓により利用者の紹介を受ける。
- ⑤ 終末期介護の充実を図る。

< 結果 >

平成26年度の特養稼働率は93.6%であった。長期入院後病院で亡くなるケースも多く、入院ベッドはショートステイの空きベッドとすべく連携を図ったが、利用ケースが少なかった。今後の課題である。

< 反省・検討 >

契約終了から新規入所までの日数をより短くできるように調整していく。入院ベッドのショート利用をショート相談員と密に進めていく。

(2) 家 族

- ① 家族会の定期的な開催。
- ② 家族との交流の機会を確保する。
- ③ 家族とのコミュニケーションを図り、要望・ニーズを捉える。
- ④ 家族会構築に向けた下地作り。

< 結果 >

- ①平成26年6月28日家族会では、平成26年5月22日神戸市の調査が入ったことについて、説明会を実施した。
- ②調査結果については、平成26年11月16日家族会を開催し説明した。
- ③定例の行事は盛大に開催することができ、家族の参加も多く、家族とともに楽しんで頂くことができた。

< 反省・検討 >

苦情件数が、4件あった。家族とのコミュニケーションをすすめ、家族の要望やニーズにこたえていく。

(3) 行 事

- ① 四季に応じた行事を実施する。
- ② 独自色のある行事を提供する。
- ② 外出の機会を提供する。

< 結果 >

四季折々の行事を企画した。家族会を兼ねての行事には大勢の家族が参加し、楽しんで頂くことができた。

< 反省・検討 >

外出行事の開催が少なかった。日帰り旅行の企画が出来なかった。

(4) 地域貢献・地域交流

- ① 「まちの保健室」の計画・運営。
- ② 地域の人が施設に足を運べるような環境作り。

< 結果 >

月2回の開催が定着している。馴染みの方が増えてきている。

< 反省・検討 >

新規の参加者を獲得していく方法も検討し、職員一丸となって盛り上げていく。

(5) 人材育成

- ① 法人理念や施設基本方針等の周知へ向けた研修を実施し、全職員に共通理解を徹底させる。

< 結果 >

神戸市の調査が入った経緯は、職員とのコミュニケーション不足が原因の一つ。

< 反省・検討 >

①職員間のコミュニケーションを密にし、職員の不安や不満に寄り添っていく。

②介護保険法の理解を深め、次世代を担う生活相談員を育成するという責務を再認識し、人材を育てていく。

< ショートステイ生活相談員 >

今期のテーマ 日常生活において計画書をもとに個別のケアを実施。
チームワークに裏付けされた適切なサービスの提供により、
安心してご利用いただく。

今期の計画 1. 他の事業所との連携・情報交換を強化
2. 稼働率100%の維持
3. ショートフロアの充実
4. 地域に進出
5. 組織作り

1. 他の事業所との連携・情報交換を強化

- ① サービス担当者会議への参加。
- ② 定例相談会への参加。(年4回)
- ③ 臨時対応、利用時の様子連絡。

< 結果 >

サービス担当者会議に参加し、利用者や家族の意向などを伺い、利用時にケアの統一を図ったことで、新規利用者などの継続利用に繋がった。臨時対応や利用者の様子など、体調に変化あった時や、新規利用者に関して、その都度連絡をおこなった。

< 反省・検討 >

パート職員も含め情報の共有化ができていないところがあった。

2. 稼働率100%の維持

- ① 新規利用者のリピーターを作る。
- ② 入所者の空きベッド対応。(特養相談員との、連携を図る)
- ③ 緊急時の受け入れ(介護者の入院、病院退院時等)
- ④ 特養行事(花見、秋祭り等)の家族参加。

< 結果 >

緊急時の受け入れなど、おもに介護者の急な入院が多くあり、受け入れはできた。

< 反省・検討 >

利用者のADLや、精神状況の違いにより、空きベッド対応が出来ない状況が多くあった。

3. ショートフロア(北館2階)の充実

- ① フロアにて、くつろいでいただくスペース作り。
- ② 施設内の活動にとどまらず、外出の機会を設ける。
- ③ 利用者からのニーズにそった環境作りを行う。(備品、設備の見直し)

④ ロングショート的生活援助。

< 反省・検討 >

一日の過ごし方が充実できるように、利用者のニーズが引き出せなかった。利用者との会話の中より、利用者が何を求めているかを、読み取っていき、外出先の選択や、気候、天候に合わせレクの一環として、ドライブなども多くとりいれていく

4. 地域に進出

① 「まちの保健室」開催。

② 神出文化祭、地域の飲食店などへの外出支援。

町の保健室に参加し、地域の方達とクリスマス会等を通じて交流を図った。
神出文化祭に、ショート利用者の方の作品を展示、利用者とともに参加。

5. 組織作り

① 事故の再発生を防ぐためにも、事故から発生する問題点を、他職種とともに改善していく。(居室での転倒など)

② 思いやり、気配り、心配りができるような助言を中心に介護職のスキルアップ・相談業務ができる人材を育成する。

< 結果 >

骨折など大きな事故はなかったが、居室内での転倒などもあり、危険の予測ができていないところがあった。

< 反省・検討 >

各利用者の、利用ごとに状態の見直しと、ケア統一を図っていく

< 介護支援専門員 >

今期のテーマ 利用者本人の望む生活の実現

- 今期の計画
1. 本人・家族との信頼関係を深める
 2. 生活の個別性を維持できるケアプランを作成する
 3. 各職種が協働で質の高いケア（チームケア）を提供していくために、各職種の調整役を行う

1. ご本人・ご家族との信頼関係を深める。

- ① 利用者とのコミュニケーションの機会を多く持つ。
- ② 行事や家族会等交流の場で積極的にコミュニケーションを図る。
- ③ 家族面会時は、利用者の近況等都度お話し、施設生活の理解を得る。
- ④ 6ヶ月毎にカンファレンスは出来る限り家族参加を勧めて、日程調整を個々に行う。またカンファレンス開催後は速やかにケアプランの説明を行い同意を得る。

< 結果 >

- ①面会時や行事開催時には積極的に家族と会話し、利用者の様子等を伝えていった。
- ②カンファレンス開催時には前もって文書で連絡し、参加を呼びかけた。不都合な場合は日時を調整し、家族に極力参加してもらえるように努めた。
- ③利用者に対し丁寧な対応を心がけ、信頼関係までは不明だが、笑顔が多く見られるようになった。

< 反省・検討 >

面会時には、積極的に家族に声をかけ、利用者の近況報告等により、コミュニケーションを図っていく。利用者に対しても、積極的に声をかけ、困りごとがないか、要望はないか、コミュニケーションを通して探っていく。

2. 生活の個別性を維持できるケアプランを作成する

- ① 生活歴を把握した上で、生活や心身状況の変化による新たな要望・ニーズを見出しケアプランを作成する。
- ② モニタリングを3ヶ月毎に実施するが、日々各フロア職員及び看護師より情報を収集し、変化をいち早く知り、ADL等大きく変化があった時は適時カンファレンスを開催しケアプランの見直し、変更を行う。
- ③ 身体拘束対象者に対しては、代替方法の検討、ケア方法の改善や環境整備の工夫を相談し、早期に身体拘束の解除を目指す。

< 結果 >

- ①他部署と連携しながら、利用者や家族の新たな要望やニーズの把握に努め、要望やニーズがあれば、ケアプラン化した。モニタリングは必ず実施し情報収集を行った。

②利用者の状態に変化があれば、早急なるケアプランの見直しを行った。

③26.5月に身体拘束対象者が6名に増加したが、身体拘束廃止委員会が中心となり、ケア方法や環境整備を工夫し拘束を解除、3月の時点で2名に減少した。

< 反省・検討 >

①生活歴の把握に不足を感じたため、今後は家族等から情報を収集し、生活歴を踏まえながらケアプランを作成していく。

②他部署との連携、家族とのコミュニケーションを図りながら、利用者の要望、ニーズに応じていけるよう努める。

3. 各職種が協働で質の高いケア（チームケア）を提供していくために、各職種の調整役を行う

- ① 介護、看護、栄養の各専門職からの意見を聞き取り、その内容を把握する。
- ② 各専門職の技術と役割を尊重しチームケアに向け調整する。
- ③ ケアの実施状況の情報を共有化し、各専門職にチームケアを推進していく。
- ④ 質の高いケアの提供のため、理学療法士・作業療法士の指導を受け、生活援助の中に取り入れる。

< 結果 >

①利用者の状態の変化に敏感になり、変化がある時は即座に各専門職に声をかけ、意見を聞くことに努めた。

②他専門職の意見や技術を取り入れ、偏ったケアプランにならないように努めた。

③カンファレンス決定事項は、参加職員がフロアへ持ち帰り、連絡できていた。

< 反省・検討 >

各専門職の意見を聞いたり、必要時は取り入れ、皆の意見が反映できるように努めていく。

その他

- ・ 要介護認定更新時は遅延なく認定調査を行う。
- ・ 利用者の心身状態の変化がある時は変更申請を適時行う。
- ・ 主治医意見書の提出状況を把握し遅延なく認定が出るよう配慮する。

< 特養介護職員 >

今期のテーマ プロとしての知識・技術を利用者・社会に活かす

- 今期の計画
1. 尊厳と人間性を尊重した個別ケアの推進
 2. 人材育成と組織強化
 3. 福祉施設機能の地域発信

1. 尊厳と人間性を尊重した個別ケアの推進

- ① 「尊厳」「人間性」について再度理解を深め、明確な根拠と利用者情報の共通理解のもと、個別ケアをチームで取り組んでいく。
- ② 利用者の「生活」を中心におき、その意向・状況に応じたケアサービス提供のため、随時、提供体制の調整を行う。

< 結果 >

利用者の意思を尊重し、また状態を把握し、個々の状態に応じた自立支援を念頭にケアをフロアごとに推進した。

< 反省・検討 >

利用者の意向、状態に応じ、自立支援を念頭にケアを進めることができた方もいたが、全員に十分なケアが提供できたとは言えず。利用者の個々のニーズに応じたケアの方法についての他職種との連携を図り、実施していく。

2. 人材育成と組織強化

- ① 法人理念や施設基本方針等の周知へ向けた研修を実施し、共通理解を徹底させる。
- ② 新人・中堅・リーダー・副主任の教育プログラムの作成と実施。
- ③ 目標達成に向けた生産的な双方向のコミュニケーションを図る。
- ④ 職員個々の役割と責任を明確にし、組織の機能強化を図る。中堅職員、新人職員それぞれの責任・役割・使命を明確化し、管理職は職員統制・業務管理の強化を図る。
- ⑤ 専門性の高い職員を養成するため、各研修・講習に参加させる。

< 結果 >

①施設の基本方針については、毎朝の唱和により周知できた。虐待撲滅宣言の唱和も継続している。

②新人職員の教育、研修について、統一したものが実施できず。双方向的なコミュニケーションはできているものの、目標達成のための生産的なコミュニケーションには至っていない。

③職務分掌の配布により個々の役割や責任、使命の明確化については理解できた。

④各種外部研修には積極的に参加した。

< 反省・検討 >

①同じ目的・目標に向かって統一したケアが提供できなかった。同じ目的・目標に向かって、組織が機能するように施設理念・基本方針等を理解し徹底を図って行く。

②各職員がそれぞれの責任や役割、使命を遂行するとともに、それぞれのレベルアップが図れるようにレベルに応じた研修へ参加していく。

3. 福祉機能の地域発信

① 事業方針や事業運営状況について、積極的に情報発信を行う。ホームページを活用し、地域が求める情報、施設が発信したい情報を含めて、積極的な情報発信を行う。

② 地域との情報交換により、地域の福祉ニーズの把握に努め、「地域において求められる施設」とは何かを探り、期待に応えられるよう施設の課題として取り上げる。

< 結果 >

地域における施設の情報は『まちの保健室』やホームページで行っているとともに、施設の秋祭り開催時に地域交流会を開催し発信した。地域での利用にも繋がっている。

< 反省・検討 >

まちの保健室を利用される方が同じ方になっているため、もっと多くの地域の方に参加していただけるように、開かれた施設、気軽に来所できる施設を目指し、情報を発信していく。

各フロアの今期目標・計画

【 本館1階 】

① 報告・連絡・相談を確実に言い、職員間で情報を共有する。

② 日課業務ではなく、利用者一人ひとりのニーズに基づいた仕事をしていく。

< 結果 >

①出勤後には職員間で申し送りを行い、情報を共有できた。小まめに職員間でコミュニケーションを図り、問題等ある際には話し合い、課題の解決に努めた。

②職員一人ひとりがケアプランを把握し、利用者が安心して安全に過ごしていただけるように生活環境を整えたりして、個別のケアが行えた。

< 反省・検討 >

①今後もコミュニケーションを密にし、より良いケアに繋げていく。

②利用者のニーズ、気になることがあれば、他部署と連携を図り、それに基づいたケアを提供していく。

【 本館2階 】

① ゆとりある時間を有効活用し、個別ケアの取り組み。

- ② 利用者やご家族とのコミュニケーションを大切に。
- ③ 個々がスキルアップと細やかな気付きができる環境づくり。

< 結果 >

- ①レクリエーションは充実したが、一日を通してのゆとりはもてなかった。
- ②利用者や家族ともコミュニケーションはよくとれた。
- ③ケアに追われ、細やかな気付きまでは行き届かなかった。

< 反省・検討 >

- ①デイルーム利用が難しく、時間にゆとりを持つことができなかったが、レクリエーション等で午後からの時間は毎日ではないが、有効活用できた。
- ②職員全員が利用者と多くコミュニケーションをとっていたと思う。家族の面会時も職員からコミュニケーションをとり状態の報告をしていた。
- ③職員個々と面談し指導することでスキルアップを目指し、コミュニケーションを大切にしてきた。細やかな気付きはまだまだだが、環境の整備や利用者への対応にこれからも力を入れていく。

【 北館1階 】

- ① サービス業であることを認識し、日々変わりゆくご利用者の状態に合わせたケアを提供する。
- ② 職員間の意識の統一に努めるべく、報告・連絡・相談を密に行う。

< 結果 >

- ①利用者一人ひとりに合ったケアの見直しが図れており、職員間のケアの統一もできている。
- ②他部署との情報共有を図ることでケアプランに反映することができている。

< 反省・検討 >

- ①今後も状態に合わせたケアの見直しを行い、統一したケアを行っていく。
- ②今後も他部署、職員間の報・連・相を行い、意識の統一に努める。

【 北館2階 】

- ① 職員間の情報の共有を徹底する。
- ② 居室環境を見直し、不備な所は整備し、事故発生リスクを低下させる。
- ③ ショート利用者、その家族の思いに寄り添い「泊まるなら神出シニアコミュニティに泊まりたい」と言っただけのようにサービスを向上する。

< 結果 >

- ①職員間での情報は、連絡ノートを活用し申し送りを行い、都度各自で確認し、情報を共有することができつつある。
- ②ショートの方のベッドの位置、ベッド柵の種類、ベッドのどちらからの移乗なのか等、

詳しくフェイスシートを作成し、そのシートに基づき統一した居室環境を整え対応した結果、大きな事故はなく事故防止に繋がった。

③残念なことであるが、ショート利用の方が神出シニアコミュニティのショートは行きたくないと言われ(1件)利用がなくなってしまった。

< 反省・検討 >

①ショートの方の家族、利用者の思いや情報がスムーズに流れず連絡不足である時があったので、相談員、看護職員とも情報を密にし、情報の共有を図って徹底していく。②居室の手すりの設置がまだできていないので、進めていきたい。そして事故防止に努めていく。また居室に絵画や写真等を飾り、温もりある居室作りをし、安心して過ごしていただけるように整えていく。

③統一したケアを進めていっているが、ちょっとした言葉のキャッチボールがスムーズに行えず、利用者が不愉快な思いをされた。今後、このようなことがないように、フロアの職員は元より他のフロア職員も情報の共有を図り「神出シニアコミュニティに泊まりたい。」と言っていただけるよう努めていく。

< 看護職員 >

今期のテーマ 身近に感じる事のできる医務室

今期の計画

1. 看護師間でのコミュニケーションを図り、連携しやすい環境を作る

医療スタッフとしての自覚を持ち、ご利用者・ご家族様に安心していただけるような看護を提供する。他職種との連携を図り、早期対応に努める。

- ① 利用者の情報を共有し、統一した看護を提供する。
朝礼後と16時のミーティング時を活用する。
連絡ノートの活用
介護職員、相談員、ケアマネなど他職種とのコミュニケーションを図る
看護職員間での意見交換、情報交換を密に行う。
- ② 医療的責任者として知識を習得する。
- ③ 社外研修の参加、伝達講習の徹底。

< 結果 >

- ①他職種との情報共有はある程度できた。看護師間の情報共有はできていないことがあった。
- ②連絡ノートには目を通すことを徹底し、確認印を押すようにした。
- ③研修・勉強会への参加職員に偏りがあった。

< 反省・検討 >

- ①今後も看護師間の連携・情報共有ができるように適宜話し合いをもち、報告・連絡・相談の場を持つように努める。
- ②勉強会・研修会に参加し知識を深める。

2. 看護業務について

- ① 入所者の健康管理を徹底。
日々の生活を維持できるよう援助する。
- ② 看取りケア
入所者、家族の意思を尊重しながら、安らかに最期を迎えられるように援助する。
- ③ ご家族様に対して
安心して過ごしていただけるように、支援する。
家族様の面会時には積極的にコミュニケーションを図る。
- ④ 地域・関係医療機関に対して
「まちの保健室」を通して、地域交流に積極的に参加していく。

地域医療機関・往診医への円滑な情報提供を行う。

〈結果〉

＜ 結果 ＞

- ①特養とショートステイの健康管理を行い、日常の体調の変化は介護士と連携をとり把握に努めた。
- ②看取りの方は少数ではあったが、家族の意向にそって対応することができた。
- ③家族とのコミュニケーションもまずまずとれている。
- ④地域交流会にも参加し、地域医療期間とも連携が図れた。

＜ 反省・検討 ＞

- ①複数疾患を持っている方が多く、受診が多かった。施設としてどのような方向性でいくのかもっと検討する必要性を感じる。
- ②看取りの希望について、説明の難しさ、受け取り方の難しさを感じることもあり、家族ともっと掘り下げた話をしていかななくてはならない。

< 管理栄養士 >

今期のテーマ 一期一会

今期の計画 1. 利用者皆様と共に過ごす、その時を大切に、安心して豊かな時間を共有し、一緒に食事を作って・共に食べる風土 (food) 作りを仕掛けていく

1. 利用者皆様と共に過ごす、その時を大切に、安心して豊かな時間を共有し、一緒に食事を作って・共に食べる風土 (food) 作りを仕掛けていく。

① 季節感を大切に、おいしく・楽しく・安全に・食べやすい献立をつくり、一緒に作り、一緒に食べる。

4月・5月	花見弁当・端午の節句・ <u>プリン</u> ・アラモード
6月・7月	七夕・土用の丑の日・ <u>たこ焼き</u> ・ <u>お好み焼き</u>
8月・9月	敬老会・ <u>なつかしの駄菓子</u>
10月・11月	秋祭り・ <u>バーベキュー</u>
12月・1月	クリスマス・ <u>餅つき</u> ・新年祝賀会・ <u>すき焼き</u>
2月・3月	節分・桃の節句・鍋

※ 下線部分は野菜カットからフロアでご利用者と一緒に

② デイサービスでは、毎月お楽しみ食とおやつ作りを計画・実施する。

当日、食材料と作業工程などの写真でレシピを作り、情報誌をつくる。

③ 地域住民の方々に、「まちの保健室」を通じて、栄養情報を発信する。

「まちの保健室」にて、手作りおやつを交えながら、季節のおやつを用意する。

血圧測定等をデータ化し、必要に応じて栄養情報を提供する。

< 結果 >

①行事食は計画通り実施でき、皆さん喜んでいただけた。

②デイサービスでは、途中から物づくりコーナーと料理コーナーに別れ、利用者のニーズにこたえたケアに変わっており、良かったように思う。

③生活習慣病予防の情報提供に努めた。

高血圧予防には、兵庫県栄養士会のカラーパンフレットを配布して、日々の塩分摂取を振返っていただき公表だった。

< 反省・検討 >

①実施方法はもう少し多職種の参加を促すように、準備方法を変える必要がある。

- ②日々の食事は休む事無く、365日安全に食事を提供し続けること。単純に当たり前と思われがちだが、給食を作り続ける責任感はかなり重圧である。そのような業務を、大きな事故無く提供できたことは給食委託会社のラフトの全面協力のおかげである。年度の終了時や、大きな行事食の後などは特に、無事終わったことへ感謝の気持ちとなる。
- ③デイサービスの毎月の企画に関して、担当者の継続した計画書作成での開始があり、利用者からの「おいしかったよ。ありがとう。」「準備も大変でしょう。ありがとう。」などの励ましもあって今後も継続していく。
- ④「まちの保健室」では、季節のおやつもそうだが、クリスマス会は雰囲気作りから楽しかった。子ども会などで、企画されてきた皆さんが企画する側になり、子育て真っ盛りの時期を思い出して話してくださる姿が印象的だった。

管理栄養士の業務について

- ① 栄養管理業務（集団）
- ② 栄養管理業務（個人）
- ③ 安全衛生管理
- ④ 給食業務
- ⑤ 給食委員会等諸会議開催・出席
- ⑥ 行政への報告・研修
- ⑦ 実習生受入れ（管理栄養士、栄養士）

● 神出シニアコミュニティ デイサービスセンター

利用定員数 35名
介護職員数 9名 (男3名 女6名 内P職員3名)
看護職員数 2名 (内P職員1名)

(平成27年3月31日現在)

利用定員数 35名
介護職員数 9名 (男3名 女6名 内P職員3名)
看護職員数 2名 (内P職員1名)

今期のテーマ 自立支援「一つでも多くの可能性を最大限に引き出す面白い
デイサービス」

今期の計画 1. 延利用人員 7,725人 (25人×309日)
2. 資質の向上

1. サービスの質の向上

- ① 「自己選択」「自己決定」「自己遂行」の支援ができるよう環境の改善、サービス内容の見直し、職員の意識変革を行い、ご利用者様の「主体性」を引き出していく。
- ② 機関誌の作成を継続し、毎月のサービス提供実績報告に居宅支援事業所、あんしんすこやかセンター、医療機関等へ出向き、現在行っている取り組みを広報すると共に、実績のない事業所にもアピールしていく。
- ③ 前年度までの行事計画を見直し、好評なものは継続し、長年続いていた画一的なものの変更し、新たなニーズにあった行事を行う。

< 結果 >平均20.4人 稼働率58.4%であった。新規利用者も多かったが、頻度の高い利用者の契約終了があり稼働率アップには結びつかなかった。

< 反省・検討 >

- ① 25年度に続き、職員が声かけや環境整備等に留意し、利用者自身が自分の意思でサービスを選択できるよう心がけた。
- ② 広報誌の作成は継続しており好評を得ている。引き続き毎月作成し居宅支援事業所等へのアピールを行う。
- ③ 管理栄養士への相談、指導のもと、「お楽しみ食」「おやつ作り」は好評を得ている。寒い時期など行事の変更はあった。センター内でのゲームなど飽きがきているものもあるため新たなアクティビティを開拓していきたい。また、機能訓練の一環として取り組めるような体操や簡単な器具を使った運動など積極的に導入したい。

2. 資質の向上

他デイサービスへ研修・見学に行き、当デイサービスの長所・短所を見つめ直し、改善していく。

< 結果 >

業務の兼ね合いもあり他の施設への研修・見学に行くことができなかった。

< 反省・検討 >

今年度は新人職員が多くデイサービス内での指導に力を入れ、気づきのレポート提出など行った。

3. 地域との交流

「まちの保健室」の企画、運営に参画。

< 結果 >

地域の方との交流としては積極的な参加ができた。

< 反省・検討 >

デイサービスとして取組事業を地域の方へもっと知って頂けるようデイでの実施プログラムを披露するなど今後の活動へも積極的に参加する。

4. 情報の収集

介護保険制度改正に向け情報の収集と改正に応じた計画や立案を行う。

< 結果 >

27年度の法改正に向けて情報収集を順次進め職員用に勉強会を行うなど周知する機会を設けた。

< 反省 >

漏れがないよう資料を熟読するとともに新たな取り組みに向け環境整備などの計画、立案に力を注ぐ。

● 神出シニアケアプランセンター

介護支援専門員数 2名（内P職員1名）

今期のテーマ 選ばれるケアマネジャーになる

- 今期の計画
1. スピード感、聴く力、調整力、発信力、交渉力、観察力を常に意識して業務を遂行する
 2. 地域に密着し、地域の「福祉相談窓口」の相談者（ケアマネジャー）になる
 3. 介護保険制度改正に向けて情報収集をする

1. スピード感、聴く力、調整力、発信力、交渉力、観察力を常に意識して業務を遂行する

- ① 本人・家族の意思を尊重し、「望む生活を支える」という基本姿勢を重視する。
- ② ケアプランを自立支援という視点で、個別性のある総合的なケアプラン立案ができ、利用者・家族やサービス提供事業者等にきちんと説明ができるようになる。
- ③ 毎月のケアプラン請求件数が上限（50件）件数を達成できるようにする。

< 結果 > 1ヶ月ケアプランの請求件数が50件を達成したが、入院や入所に伴い請求件数が減少している。本人や家族の意思を尊重しながらケアプランを作成した。
< 反省 > 常勤2名体制となるため、請求件数を増やすために病院やあんしんすこやかセンター、各介護保険事業所へ利用者獲得への営業活動を行っていく。

2. 地域の「福祉相談窓口」の相談者（ケアマネジャー）になる

- ① 日頃から、地域住民や各関係機関との顔の見える関係作りに努め、多方面から相談が入るようにしていく。
- ② 近隣病院に訪問活動やダイレクトメール等の広報活動を通して、「福祉相談窓口」としての存在をアピールしていく。
- ③ 新規利用者の相談が毎月1件以上入るように広報活動を行う。
- ④ 「まちの保健室」等の開催を通じて、地域住民の方に顔を覚えてもらい、身近な介護の相談者（ケアマネジャー）として認識してもらえる存在になる。

< 結果 > 各関係機関との関係を構築し、相談しやすいように努めている。近隣病院やダイレクトメール等の広報活動はできておらず、新規利用者の相談はあるものの請求件数の増加には繋がっていない。まちの保健室には参加しており、相談から利用に繋がった件がある。

＜ 反省 ＞新規利用者の獲得に向けて、近隣病院やダイレクトメール等の広報活動を実施していくとともに、地域の相談窓口としての機能できるように合わせて地域の行事や催しごとに参加を検討していき、その場で広報活動を行っていく。

3. 介護保険制度改正に向けて情報収集をする

説明会や研修会に参加して、介護保険制度改正に関する情報を積極的に収集する。

＜ 結果 ＞説明会、研修会に参加し、介護保険制度改正の情報収集を行った。改正に対応し、スムーズに移行できた。

＜ 反省 ＞制度改正については、アンテナを張り巡らせ、先を見据えた情報を収集に努めて対応していく。